

特別対談

「インディバ®」の魅力、「ユーザー優先」というインディバ・ジャパンの考え方

流行り廃りの激しいエステティック業界において20年以上、高い支持を集めている高周波温熱機器「インディバ®」。その秘訣は、機器としての性能の高さはもちろん、他社がまねできない独自のアフターフォロー体制を敷いている、インディバ・ジャパンの方針に負うところが大きいのも事実。「インディバ®」のポテンシャル、そしてインディバ・ジャパンならではの体制について、名誉顧問の東海大学名誉教授、谷野隆三先生と、インディバ・ジャパン代表取締役会長、山口祐司が語りました。



谷野 インディバ・ジャパンは、既存のビジネスモデルにとらわれない企業というのがわたしの印象にあります。単なるメーカーとユーザーではなく、“ファミリー”として長くユーザーにかかわろうとしているのもその一つ。ここまでユーザーに対して親身になる企業というのは見たことがない。

山口 「インディバ®」は確かに優れた機器ですが、どんなに高性能なものでも製品だけではただのBOXだと思うのです。ユーザーの皆さまが使いこなしてこそ生きるもの。ですから創業以来、ご導入いただいた方に「インディバ®」の良さを一つでも多く知っていただき、施術に活用していただきたいと思い、日々行っている技術講習、隔月で開く定例講習などすべて無料にしています。しかし美容機器のメーカーでこうした体制を敷いているところは他にないようで、結果的に、わたしものやっていること

社会と「インディバ®」の関わりを常に勉強している姿勢は素晴らしい



株式会社インディバ・ジャパン
名誉顧問 谷野隆三先生

1940年生。慶應義塾大学医学部卒業。東海大学医学部教授、日本形成外科学会理事・監事・理事長、日本頭蓋顎顔面外科学会理事・監事・会長を歴任。現在東海大学名誉教授。また医療法人社団天神会理事長、天神下皮フ科形成外科院長も務める。

が「素晴らしいこと」に見えている、というのが実際だと思います。機器についても8年保証とさせていただいて、機器への自信はもちろん、ユーザーの方に安心して使用してもらいたいという考えからなのですが、これも「業界では類を見ない」と言われます。ユーザーの方に自信を持って施術していただくことを思えば、当然だとわたしは考えるのですけれど…。

谷野 他ができないことをやっているからこそ、これだけ多くのファンを生んでいるのでしょう。それに会長自身がメタボリック症候群やロコモティブ症候群、最近ではレビー小体型認知症など、社会的な問題と「インディバ®」の関連について、実によく勉強している。だから発信力も強いのだと思いますよ。

山口 「エステティックによる社会貢献」は、今後絶対に考えていかねばならないことなので、どうしても社会的な問題と関連付けて考えます。日頃の施術の中でちょっと工夫することで、「健康長寿」につなげていくことができる機器ですから。

未だに新しい何かが見つかるそれが「インディバ®」の面白さ

谷野 「インディバ®」は「深部加温」が可能な高周波温熱機器だということは、広く知られるようになってきましたが、加えて脂肪滴肥大や脂肪生成抑制など、エビデンスを求めることが難しい分野でin vitroでの研究結果もあり、無限の可能性を感じさせてくれる機器。若年層の平均体温が低下している昨今、低体温がもたらす弊害も問題視され、ここでの「インディバ®」の貢献にも期待しています。

山口 低体温も大きな問題ですよ。わたしどもは「目指せ体内温暖化」が企業としてのテーマでもあり、改善に貢献できるようエビデンスの蓄積に取り組んでいきます。「インディバ®」はスペインで33年、

日本でも21年の歴史がありますが、新しい有用性がまだ発見できるのです。これにはわたしも驚きです(笑)。これだけ奥の深い機器は他にないでしょう。まだまださまざまな分野で役立てるはずですので、これからも勉強していきます。

谷野 「インディバ®」の新たな作用を楽しみにしつつ、インディバ・ジャパンの体制、そして山口会長自身にも期待していますよ。機器の製造はスペインでも世界的に牽引しているのは日本、そして山口会長だと思いますから。

山口 インディバ・ジャパンもわたしも、支えてくれているのは“ファミリー”の方々です。彼らが「インディバ®」を広めてくれます。だからこそ、教育と万全のアフターフォローで我々は応えていかなくてはならないと考えています。

谷野 類似品が出てきても太刀打ちできない実績と機能を持ち、コンプライアンスも大切にしている。10年後、20年後がさらに楽しい機器、そして企業だと思います。



株式会社インディバ・ジャパン
代表取締役会長 山口祐司